

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371001617		
法人名	医療法人 西口整形外科		
事業所名	グループホーム千音寺 そよかぜユニット		
所在地	名古屋市中西区富田町大字千音寺字間渡里2883番地		
自己評価作成日	平成29年10月24日	評価結果市町村受理日	平成30年2月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2371001617-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成29年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

西口整形外科との連携があり、リハビリ等、必要に応じて行い医療面においても安心して生活していただき、家族との関わりを大切に、一人一人の利用者様にあった支援を行うように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは医療機関に併設されていることで、医療面での支援が充実していることが特徴である。母体の医療機関への受診支援も行われているが、ホームでは運営法人とは別の医療機関と連携していることで、利用者の健康状態等に合わせた柔軟な支援が行われている。利用者の看取りを見据えた支援にも前向きな取り組みが行われており、医療面での連携を深めながらホームで可能な支援が行われている。運営推進会議については、運営法人から施設長、事業統括者、管理栄養士等、複数の法人の職員が参加しており、法人全体で出席者との交流に取り組んでいる。また、地域貢献活動にも取り組んでおり、地域包括支援センターの事業である地域の高齢者の自宅の鍵を預かる事業にホームも協力しており、24時間職員が勤務している利点を活かした協力関係の取り組みが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	共有スペースに理念を掲示していつでも確認できるようにしている。	開設時に作成した理念をホーム内に掲示しており、職員が日常的に意識する取り組みが行われている。また、職員間でミーティング等の機会を通じて振り返る機会をつくっており、理念に掲げた利用者主体の支援につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	散歩を含め、近隣のお店に出かけたり、地域の方とのふれあいを大切にしている。	地域の行事の際には、ホームからも利用者に参加する機会をつくり、交流に取り組んでいる。また、小学生や中学生の受け入れや併設のデイサービスの合同の行事の際には、地域の方にも来てもらう機会をつくっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	鍵預かりサービス事業を通し地域貢献に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1回の会議ではホームでの現状取り組みを報告し意見の交換・夏祭りなど行事の参加もしていただいている。	会議の際には地域の方の参加が得られていることで、地域に関する情報交換等にもつながっている。また、併設事業所の複数の職員が参加していることで、法人全体の取り組みを知ってもらう機会にもつながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	いきいき支援センターの方に運営会議に参加して頂き意見交換している。	市担当部署とは、法人の関連事業所を通じても行われており連携に取り組んでいる。地域包括支援センターとも連携しながら、地域の高齢者の鍵を預かる事業にホームも協力しており、地域貢献にも取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	フローは施錠しないようにしているが玄関は安全面の為ロックモニターで管理している。	利用者がホーム内を自由に移動できるようにフロア内に施錠を行わず、職員間での見守りが行われている。身体拘束を行わない方針で支援が行われているが、状況等に合わせた対応も行われており、職員間での検討が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	資料等、職員間で確認していき、虐待がないように注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	対象者は今現在いないが今後制度についての話し合いをするようにしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は時間をかけ説明し理解していただいた上契約している。 疑問等あれば納得するまで説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時には利用者様の様子・体調面を報告し気になることがないか、意見・要望を聞き運営に反映させている。	新たにホームで衣類の販売を行う取り組みを始めており、家族との交流につなげている。家族からの要望等については、ホーム管理者の他にも、法人の事業統括者の対応も可能な体制がつけられている。また、ユニット毎に2か月毎の便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	二か月に一度全体ミーティングを行い、意見・提案・話し合いをしている。その他申し送りノートを利用し情報交換を行っている。	2か月に1回のユニット会議が行われている他にも、日常的な申し送りを通じたミーティングの時間をつくっており、職員からの意見等は管理者が把握し、法人に報告されている。また、職員面談の機会をつくり、職員の把握に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	介護労働者雇用管理責任者を置き、就労環境を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修には職員一人一人が積極的に参加し資料等全員が共有し、今後のケアに活用していく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	研修等参加時には同業者との意見交換をして交流を図るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	常に利用者様の希望や要望に耳を傾け、安心して話ができるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族からの希望・要望などを聞き、入居後はホームでの様子を報告し、心配事などがないかを確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	その時に必要な支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常生活における仕事を手伝っていただくことで、支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	職員は利用者様と家族の絆を大切に、利用者様を支えていく関係を築くように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族の支援を受けながら、馴染みの人や場所との関係が途切れないように、支援に努めている。	利用者により、入居前からの生活習慣等を継続することができるように、馴染みの場所等への外出が行われている。また、家族との喫茶や買い物等を通じた外出の機会もあり、馴染みなの関係継続につなげている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様一人ひとりの性格や趣向を見極め、利用者様同士が関わりを持てるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所後、家族様から相談等があれば、できるかぎり支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様のことを傾聴をし話しをし、伝えたいことを理解している。	職員全員で利用者に関する把握に取り組んでおり、職員の気付き等は日常的に行っている申し送りの時間にも話し合われている。また、ユニット会議の際には、利用者のカンファレンスを実施しており、利用者の意向等の把握につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	趣味や好きなことを理解し、そのことを話すように努めている。家族・本人様からも話をする中で今までの生活歴を聞いたりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	声掛けをし、生活のリズムを整えたり、防げる病気をしないよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	二カ月に一度のミーティング時に利用者様の現状・見直しについて話し合い、全スタッフに意見を聞き、今後のケアに活かしている。	介護計画は基本6か月での見直しが行われており、変化に合わせた随時の見直しも行われている。2か月毎のミーティングを通じた利用者のチェックとモニタリングを実施している。また、1日1ページの記録用紙を活用した細かな記録にも取り組んでいる。	2か月毎での職員ミーティングを通じたモニタリングを実施しているが、様式等を工夫しながらモニタリングを通じた評価を実施する等、ホームの継続した取り組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の個人記録には、気づき・様子を記入。その他申し送りノート・ヒヤリハット等、全職員が情報を共有して毎日の介護に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人の状態によってそれぞれのリハビリを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営会議時、地域の方・民生委員の方々から情報・意見を頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回主治医による訪問診療を行っている。24時間対応可能の為、体調が悪い時も往診していただく。	母体は医療機関であるが、協力医療機関を別の医療機関としており、利用者の細かな健康状態等の支援が行われている。ホームからの受診支援も行われており、医療面での連携につなげている。また、併設事業所の看護職員による支援も得られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎日、看護師が利用者の様子を確認、報告、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は症状・日常生活の様子を伝え、退院時は病院からの情報提供等、情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に重度化に関する説明を行っている。容態の変化時は主治医と家族で方針の話し合いを行う。終末期になった場合は説明し同意書を作成している。	ホームでの看取りを見据えた支援にも前向きな取り組みが行われており、協力医とも連携しながら利用者の看取り支援も行われている。利用者の身体状態等に合わせた話し合いを重ねながら、ホームで支援可能な内容の確認が行われている。	ホームで最期を迎えたいという意向もあり、ホームでも可能な支援が行われている。職員への支援も状況に合わせて行われているが、取り組みを継続することで、より良い支援につながることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時・事故発生時についてミーティング時に話し合い、対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年二回、消防訓練を行っている。	年2回の避難訓練の際には、夜間を想定した訓練や通報装置の確認等の取り組みも行われている。建物の2階と3階に開設されていることで、利用者の避難誘導に取り組んでいる。非常時の備蓄品については、関連の老健施設にて管理されている。	水害が想定される地域でもあり、建物1階に開設されているデイスサービスと連携した取り組みが必要と思われる。現状、単独での訓練の実施から合同の実施も含めた取り組みにも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉使いには気をつけながら対応する。声の大きさには注意するようにしている。	理念の中に掲げている「利用者様のありのままを受け入れる」ことを意識しながら、職員による利用者への言葉遣い等を意識する取り組みが行われている。また、管理者、リーダーが気になった際には、日常的な注意喚起等も行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人様の希望の表出・自己決定ができるような声かけをするようにし、本人の思いに気づけるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様一人ひとりに合った好きなこと・できることをスタッフも手伝いながらやる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節に合った服装を着用して頂き、定期的に美容院の人に来て頂きカットなどをしてもらう。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者様の食が増すように、月に一度リクエストに応え食事が楽しくなるように工夫している。	日常の食事については、併設事業所の厨房から提供されているが、管理栄養士が運営推進会議に参加する等、利用者の状況や希望等を把握する取り組みが行われている。また、外部からのデリバリーも行われており、利用者の楽しみも行われている。	現状、ホームでのおやつ作り等の取り組みに限られた範囲となっている。利用者が参加する機会を増やすためにも、ホームのキッチンを活用した取り組みにも期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	利用者様一人一人に合った量など、その日の体調を見ながら食事や水分を摂って頂く。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、一人ひとり寄り添いながら口腔ケアをし、入れ歯は預かってポリドントにつける。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	個々の方達の排尿間隔を理解し、声かけ誘導にて排尿を促す。	利用者一人ひとりの排泄状態の記録を残しており、日常の申し送り等を通じて職員間で情報を共有し、トイレでの排泄に取り組んでいる。職員2名での介助を行っていた方の排泄状態が改善したり、職員間で連携した取り組みが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便の確認を行い個々の状態に合わせて便秘薬を服用。 オヤツ時にヨーグルト・ジョア・牛乳など便通に良い物を提供。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	個々の体調に合わせて入浴を行っている。腰痛・かゆみ等の訴えがあった場合は声かけしながら入浴を実施し、利用者様の都合に合わせて行っている。	入浴は、週2回、午後の時間に行われている。入浴を拒む方には、声掛けを検討したり、場合により家族にも支援をお願いすることもある。また、ユニット毎に2か所の浴室を備えており、利用者の身体状態に合わせた対応が可能な体制がつけられている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	介助を要する方、自ら訴えられない方は、時間を考慮し入床介助を行う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方された薬は2名のスタッフで確認。個々の服薬目的を把握し、眠前薬等様子観察し、必要時は変更して頂く事もある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々に出来ることを行い、食器拭き洗濯物片付け等を行なってもらっている。 オヤツも手作りし楽しい時間を設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気・個々の健康状態を考慮し、散歩・サークルK等近場にての買い物・モーニングなどに掛け、気分転換を行う。	利用者により、併設医療機関の整形外科の受診に出かけている方があり、日常的な外出に機会にもつながっている。近隣のコンビニや喫茶等への外出支援が行われている。また、季節に合わせた花見や初詣等の外出行事が行われている。	外出時に必要な自動車の確保等の制約もあり、外出行事が限られた範囲となっている。利用者がホーム内で過ごすことが多い現状があるため、併設事業所とも連携しながら、外出の取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	職員同行・見守りの下、外食や買物する機会が有れば、金額の認識や支払いをして頂く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望が有れば対応(介助の必要が有れば介助を)する。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	清潔を保ち、落ち着いた精神状態で過ごせる様、又時間や季節の移り変わりを感じられる環境作りに努める。	ホーム内はゆったりとした広さが確保されていることで、利用者が日常生活の中で圧迫感を感じないような配慮が行われている。また、リビングや通路の壁には、季節感に配慮した飾り付けを行ったり、利用者の作品の掲示等が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食事時は定位置とするもそれ以外は定めず、他利用者や職員とのコミュニケーション、レクリエーション等を楽しめる様心掛ける。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居心地良い事を第一としながら、本人の好みや家族の意向を配慮する。	居室内が広いことで、車椅子の方も居室を広く活用することができる空間が確保されている。利用者、家族の意向等にも合わせながら、様々な家具類やテレビ等の持ち込みが行われており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ADL、残存機能の維持を図りつつ意欲的な日常生活を送れる様利用者個々に合った介助を考える。		